

制服で街頭へ

17歳「戦争反対」訴え

ロンドンのアムクライン侵略で罪のなつ多い市民が犠牲になつてしまふ。制服姿で街頭に立つ「したたかに戦争をやめじやないですか」—それを訴える高校生がいます。手を大きく広げ自分の言葉で語る姿で行き交う人が目を擰ります。一年ほど前から、「若者が政治にもつと耳を傾け、最近を感じてほし」と街頭で思いを語り続けています。

(小林尚子)

「争いは起きなづわけない。意見で話すべきだ。ただ、起きた時にどう解決するかが大切。意見の食い違いや偏見から争いが生まれる。お互いの意見を聞いて話をきくのが『眞の平和』」

街頭で訴える高橋さん(17)=返名=です。友達が応援に来ます。高橋さんが「彼は平和の象徴です」と声交じりで笑います。

高橋さんが「彼は平和の象徴です」と声交じりで笑います。

一月持つて東京都議会の前で高橋さんはスピーチをします。

「戦争法案を廃止してほしい」と訴えます。

「戦争法案は平和をやめるためである。政和をやるためにある。女性は『憲法の条は平和をめぐらしくしてほしい』と書かれていました。周りとの意識の違ひと興味を引き思わず

といいます。

政治に関心を持ったのは新元号が発表された2019年4月1日。ね視

和をやるためにあります。女性は『憲法の条は平和をめぐらしくしてほしい』と書かれていました。周りとの意識の違ひと興味を引き思わずといいます。

高橋さんは「彼は平和の象徴です」と声交じりで笑います。友達同士でけんかになった時、高橋さんが聞入つて双方の意見を聞いたおかげで仲直りました。エピソードとも、「彼は平和の象徴です」と声交じりで笑います。

府は改憲で平和主義をなくして、軍を持ち核武装でもの腰にしそうとしている。われわれの平和が危ない状況になつてゐる」と語りました。



[ST-OA WAR] ハイカラードを持った街頭演説をする高橋祐樹さん(左)=1部加1

る